

いよいよ二〇〇六年も終わります。皆さんにとって今年はいい年だったでしょうか。当院も四年目を迎え、先輩の関連病院に追いつけ負い越せの勢いでした。実績も徐々になり上がり、職員の皆さんご苦勞様でした。

開院時には最新鋭だった医療機器もさらに新しい機器が発売されており、こちらもしつづつ入れ替えが必要になってきました。来年早々には六四列マルチスライスCTを導入し（現在当院のCTは一六列）、「冠動脈CT」を普及させたいと考えております。人間ドックでは胃内視鏡や胃透視を積極的に行い、早期胃癌の発見を行っています。その数は月数百に及びますが、三大死因のひとつである虚血性心疾患の早期発見のための受診はまだまだ低水準です。現在負荷心電図がその第一選択ですが、今後は「冠動脈CT」の受診が胃内視鏡や胃透視の数を上回るように啓蒙活動を行っていきたいと思います。実際には生活習慣病のリスクを持っている方が全て対象になると考えています。急に心筋梗塞を発症する前に治療が可能になります。クモ膜下出血や脳梗塞の予防に脳ドックの受診率が増えていますが、心臓ドックも受診者数が増えるように講演等おこなって

行きたいと思えます。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎もやつと下火となり、当院にも多数の患者さんが来院され、一部の方が入院となりました。十一月下旬の流行期から、感染対策委員会を中心に感染対策を行い、院内での蔓延を未然に防げたことは特筆に価すると思えます。当院の感染対策の標語をここで紹介したいと思います。「①ひとりの怠慢が全ての努力を無駄にする。②医療従事者は感染を防御することができずが媒介者にもなりうる。」大変良い標語だと思えます。特に①は感染対策だけでなく、院内の全ての職場に共通する大きな課題だと思えます。皆さんよろしく願います。

二〇〇六年の終わりに今年の感動したことをいくつかあげたいと思えます。まず病院機能評価に合格したこと。当院のように新しい病院で合格することはかなり困難なことと考えます。次に白川先生を中心に小児科を新設できたこと。来年春には周産期センターが隣に竣工します。同時に産科、麻酔科、放射線科も開設します。九月の健康まつりも大成功し、地元密着型の病院として来年度も努力して行きたいと思えます。